

授業実践Ⅱ 小学校第4学年音楽科学習指導案

指導月日 平成30年10月30日

所属校名 東松島市立赤井南小学校

氏名 佐々木 侑

1 題材名「せんりつの重なりを感じ取ろう」(教育芸術社 小学生の音楽4)

2 題材の目標

- 旋律の特徴や重なりに関心を持ち、友達の歌声や楽器の音を聴きながら、自分の声や音を合わせて表現したり、音の重なりを感じ取って聴いたりする学習に取り組む。

【音楽への関心・意欲・態度】

- 主旋律や副旋律の音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の考えや思い、意図を持つ。

【音楽表現の創意工夫】

- 友達の歌声や副旋律を聴きながら、自分の声を合わせて歌ったり、サミングの仕方を知り、曲想に合う息のつかい方や音色に気を付けてリコーダーを演奏したりする。

【音楽表現の技能】

- 旋律の反復、変化、重なりが生み出す響きや特徴を感じ取りながら想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

【鑑賞の能力】

3 題材観

本題材は、新学習指導要領音楽科第3学年及び第4学年の内容より、A表現(1)ア「歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと」イ「曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと」ウ「思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること」のうち、「(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能」「(ウ)互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能」、A表現(2)ア「器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと」イ「次の(ア)及び(イ)について気付くこと」のうち、「(ア)曲想と音楽の構造との関わり」、ウ「思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること」のうち、「(ウ)互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能」及びB鑑賞(1)ア「鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲の演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと」イ「曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと」、〔共通事項〕(1)ア「音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること」を受けて設定したものである。

本題材は、これまでの学習を通して身に付けてきた自分と友達の歌声や楽器の音を聴き合いながら、みんなで合わせて演奏する能力を更に伸ばし、旋律の重なり合う響きを味わうことができるようにしていく。前半と後半の旋律を重ねて歌う歌唱教材「パレードホッポー」(高木あきこ作詞/平吉毅州作曲)と、異なる特徴を持つ旋律の重なり合いや掛け合いが面白味のある鑑賞教材「『アルルの女』第2組曲から『ファランドール』」(ビゼー作曲)を教材として扱い、旋律の反復や重なりが生み出す曲想を味わい、それを生かして楽曲の構造に気を付けて音楽を聴くことができるようにする。また、器楽ではリコーダーのサミングについて学習し、「雨の公園」(花岡恵作詞/作曲者不明/岡部栄彦編曲)を輪奏したり、「ハッピーバースデイトゥユー」(P. S. ヒル・M. J. ヒル作曲)を演奏したりする。共通教材「もみじ」(文部省唱歌/高野辰之作詞/岡野貞一作曲/中野義見編曲)では、

秋の情景を思い浮かべながら主旋律と副旋律を歌い、二つの旋律の重なりの特徴を捉えさせる。前半部分の輪唱の音の重なりや、後半部分の3度の響きを中心とした音の重なりを感じながら、二部合唱で歌っていく。なお、本題材では、音楽を形づくっている要素のうち、主に、「音色」と「音の重なり」を扱うこととした。

4 児童の実態 [第4学年1組 男13名 女11名 計24名]

(1) 意識調査より (8月23日実施 在籍24名 欠席1名)

児童の音楽に関する意識調査を行った結果は以下のとおりである。(±数字)は前回との比較。

質問	はい	いいえ
1. 音楽の授業は楽しい。	21人 (±0)	2人 (-1)
2. 歌うことが好き。	21人 (±0)	2人 (-1)
3. 楽器を演奏することが好き。	16人 (-5)	7人 (+4)
4. 音楽を聴くことが好き。	22人 (+2)	1人 (-3)
5. 音作りが好き。	15人 (+2)	8人 (-3)
6. 音楽を聴いて、想像できる。	20人 (±0)	3人 (-1)
7. こうやって歌いたいと思うことができる。	17人 (±0)	6人 (-1)
8. 音符を読むことや音楽記号の意味が分かる。	12人 (+6)	11人 (-7)
9. みんなで歌うことが好き。	22人 (+1)	1人 (-2)
10. 自由記述	<p>○きれいな歌声になった。○もっとみんなと歌いたい。 ○みんなで歌ったり、演奏したりすることが楽しい。 ○音作りをまたやりたい。○音楽を想像できて楽しい。 ●音符が難しく、忘れてしまう。●リコーダーが難しい。 ●演奏が難しい。 等</p>	

以上の結果より、音符を読むことや音楽記号の意味が分かるようになった児童が増加した。一方で、楽器を演奏することが好きと回答した児童は減少した。音楽を聴いて想像することや、思いや意図を持つことができると回答した児童に変化は見られなかった。

(2) 児童について

本学級の児童は、元気があり活発な児童が多くいる。反面、教師や友達の話落ち着いた聞いて聞くことを苦手としている児童もいる。またそういった児童の中には、視覚優位や聴覚優位の児童がいる。4学年進級時の音楽の授業では、多くの児童が、曲想を感じ取ることができており、児童自身もできていると感じていた。一方で、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みについては理解が浅く、音楽的な要素を根拠に理由を述べることに課題があった。

I期では、楽曲の一部が副旋律になっている二部合唱に取り組んできたが、自信を持って副旋律を歌うことが難しく、全体が主旋律につられてしまうことがあった。また、これまで自然で無理のない歌い方になるよう発声方法を指導し、更に曲想に合った歌い方を考えさせることで響きのある歌声が聴こえるようになってきた。歌うことを恥ずかしいと感じていた児童は少なくなり、明るい表情で歌う姿が見られるようになった。

5 指導観

児童の実態から、集中力が途切れないよう、1時間の授業の中で歌唱と鑑賞や、器楽と歌唱のように内容を組み合わせて指導することとした。歌唱教材「パレードホッホー」では、前半部分に擬音語が入った楽しい歌詞と、リズムカルな旋律で弾んだ感じの曲想と、後半部分の滑らかでゆったりとした感じの曲想を比較して聴かせることで楽曲全体の構成に気付かせ、曲想を感じ取らせたい。歌唱表現する際は、全体の旋律を十分に歌えるようにし、特徴を生かして二部合唱にしていく。鑑賞教材

「『アルルの女』第2組曲から『ファランドール』」では、旋律の繰り返しや掛け合いが分かるよう、図形楽譜を指でたどり旋律の動きを捉えさせたい。前半と後半の二つの旋律の特徴を捉えさせた後に、最後に重なり合っている部分の曲想を感じ取らせ、変化に気付かせたい。器楽では、ソプラノリコーダーでサミングの奏法を指導し、高い音のミ、ファ、ソを演奏できるようにさせる。その後、「雨の公園」を輪奏し、音の重なりを感じて演奏させたり、「ハッピーバースデイトゥユー」を演奏させたりする。共通教材「もみじ」では、秋の情景を思い浮かべながら主旋律と副旋律を歌わせ、二つの旋律の重なりの特徴を捉えさせる。学級を主旋律と副旋律のパートに分けて、前半の輪唱の音の重なりや後半の3度の響きを中心とした音の重なりを感じながら、互いの歌声を聴き合って歌えるように指導していく。

6 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ 児童が思いや意図をもって主体的に歌唱表現できる授業を目指して
— 楽曲についての聴き取り、感じ取りを深める学習過程の工夫を通して —

(2) 研修課題との関連

I期では、児童が楽曲に対して思いや意図を持つことができるよう、楽曲の歌詞を丁寧に取り上げたり、楽曲を聴かせて楽譜から旋律の動きに着目させたりして指導することに重点を置いた。その結果、児童は歌詞が表す情景を思い浮かべてワークシートに記述したり、曲想を感じ取って歌唱表現に生かそうとする発言が聞かれたりした。これらの実践を踏まえ、II期では、本研修課題を解決するために、聴き取り、感じ取りを深めるための教師の働き掛けを更に工夫した。日本語のよさを生かした発音や呼吸に気を付けながら、音色や音の重なりを意識して、思いや意図を持って歌唱表現できるよう、以下の点について指導を実践していきたい。

① 情景を想像し、曲想を感じ取らせるための工夫

楽曲の題名や歌詞、リズム、旋律などに着目させて楽曲を聴かせ、ワークシートに児童一人一人が感じ取った曲想を書かせ、全体でも確認していく。

② 旋律の重なりを聴き取り、感じ取らせるための工夫

歌唱と器楽では、教師と児童に分かれたり、学級を二つに分けたりして合唱や合奏をすることによって主旋律と副旋律を捉え、音の重なりを感じられるようにする。また、鑑賞では図形楽譜を指でたどりながら聴き取り、旋律の動きを捉えさせたり、楽譜を重ね合わせて視覚的に旋律の重なりを感じ取らせたりしたい。

③ 主体的に歌唱表現させるための工夫

歌唱教材を扱う学習では、グループ活動を取り入れ、楽曲の思いや意図を伝え合ったり、どのように歌うかについて話し合ったりし、児童が主体的に歌唱表現できるようにする。

④ 児童の思いや意図を歌唱表現に生かすためのワークシートの活用

I期同様、記入項目を少数にし、考えたことが分かるようにワークシートを用いる。考えた歌唱表現や既習の音楽記号は教科書に直接書き込ませる。

⑤ 学習の場の設定の工夫

児童が担当する旋律を安心して歌うことができるよう合唱隊形で歌わせたい。そのため、教室後方に合唱スペースを設け、ビニールテープで示しておく。児童が歌声を確認できるように、互いの歌声を聴き合う活動を取り入れたい。

⑥ 題材を通じた授業展開の工夫

楽曲を歌ったり演奏したりする経験を増やすこと、授業に集中することが難しい児童がいることの二点のために、45分の授業の中で二つから三つの楽曲を扱う。I期では、歌詞や旋律が十分に身に付いていないために児童が教師に確認する場面があった。II期では、楽曲を扱う回数を増やし、楽曲に親しむ機会を増やすことで自信を持ったり、演奏したりできるようにする。

7 題材の指導と評価の計画（7時間扱い 本時7／7）

時間	◆ねらい ○主な学習内容	評価規準・〈評価方法〉			
		音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1 ・ 2	◆旋律が重なり合う面白さを感じ取りましょう。 ○「パレードホッポー」を聴き、旋律の特徴を感じ取ったり、特徴を生かした歌い方を工夫したりする。 ○「ファランドール」を聴き、旋律の重なりや掛け合いの生み出す面白さを感じ取る。 ○サミングの演奏の仕方を知る。	・旋律の特徴や重なりに関心を持ち、友達の歌声や楽器の音を聴きながら、自分の声や音を合わせて表現したり、音の重なりを感じ取って聴いたりする学習に取り組もうとしている。 〈発言・観察〉			・旋律の反復、変化、重なりが生み出す響きや特徴を感じ取りながら想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。〈発言・ワークシート〉
3 ・ 4 ・ 5	◆サミングを覚えてリコーダーを吹きましょう。 ○旋律の特徴を生かして「パレードホッポー」を歌う。 ○高いミの音の出し方に気を付け、音の重なりを感じて「雨の音」「ハッピーバースデイトゥユー」を演奏する。 ○「もみじ」の範唱を聴き、主旋律と副旋律を知る。	・旋律の特徴や重なりに関心を持ち、楽器の音を聴きながら、音を合わせて表現したり、音の重なりを感じ取って聴いたりする学習に取り組もうとしている。〈発言・観察〉	・主旋律や副旋律の音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや思い、意図を持っている。〈発言・ワークシート〉	・副旋律を聴きながら、サミングの仕方を知り、曲想に合う息のつかい方や音色に気を付けてリコーダーを演奏している。 〈演奏聴取〉	
6 ・ 7 本時	◆声が重なり合う美しさを感じて歌いましょう。 ○歌詞の表す情景を想像し、「もみじ」を二部合唱する。 ○「もみじ」の互いの歌声を聴き合い、旋律の重なり合う響きを味わう。		・主旋律や副旋律の音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや思い、意図を持っている。〈発言・ワークシート〉	・友達の歌声や副旋律を聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。〈表情観察・演奏聴取〉	

8 本時の計画

(1) 目標

「もみじ」の主旋律と副旋律の重なりを聴き取り、美しさを感じ取りながら、どのように歌うかについて思いや意図を持って歌う。

(2) 本時の指導に当たって

本題材の楽曲「もみじ」は、紅葉している木々の色とりどりの情景や散った葉が水面に浮かんでいる様子の美しさを表しており、主旋律、副旋律ともに美しく歌いやすい流れになっている。多くの児童が耳にし、主旋律部分を歌ったことがあると予想される。一方で、副旋律は初めて聴く児童が多くいると考える。そのため、自信を持って主旋律を歌うことができるようになったら、副旋律の範唱を聴いたり、歌ったりする場面を多く取り入れたい。その際には、主旋律に負けずに歌うのではなく、互いの歌声や響きを聴き合って音の重なりを感じたり、美しさを感じ取ったりできるような働き掛けを行っていきたい。

これまで、「音楽を形づくる要素を理解すること」を課題としていたが、児童は旋律や強弱、フ

フレーズに着目できるようになり、それらを基に歌唱表現の工夫を考えることができた。Ⅱ期では、題材曲「もみじ」から、音色やリズム、音の重なりなどの音楽を形づくる要素にも気付かせ、歌唱表現につなげていきたい。

また、Ⅰ期の取組を通して、4人編成でのグループで話し合い活動が円滑に進められるようになった。Ⅱ期では更に児童同士で曲想や歌いたい思いや意図について話し合うことができるように支援していく。歌唱表現の際には、自然な声で伸びやかに歌うことができるようになってきたため、母音、子音、濁音等の日本語のよさを生かした発音や呼吸を意識した歌い方について指導していく。

これらを踏まえ、研修課題を解決するために、以下の点を手立てとして本時に取り組んでいく。

① 情景を想像し、曲想を感じ取らせるための工夫

児童はこれまでの理科の学習や生活体験から、秋という季節の特徴を知っており、紅葉の様子について理解できていると考えられる。そのため、情景をより深く想像させるために写真を提示していきたい。Ⅰ期と同様に、楽曲の観点（季節、場所、歌詞に出てくる色など）を提示して、歌詞を見ながらワークシートに記入させる。児童が曲想を感じ取ることができるよう、リズム、旋律などに着目するよう指示を出し、楽曲を聴かせていく。

歌詞の中に出てくる「モミジ」「マツ」「ツタ」などの植物が紅葉している写真を提示し、「もみじ」の歌詞の情景を思い浮かべられるようにする。更に児童が想像する楽曲「もみじ」の歌の中の情景を絵に表す課題を提示し、学級に児童の絵を掲示していきたい。

② 旋律の重なりを実感させるための聴き取りの工夫

主旋律と副旋律の重なり合う部分を教師がピアノで演奏し、旋律が重なり合う美しさを感じ取らせたい。また、それぞれの旋律を透明なシートに書き写したものを楽譜に重ね合わせ、音の重なりが視覚的に分かるようにする。旋律を捉える過程では、自信を持って主旋律と副旋律を歌えるよう、教師と児童に分かれたり、学級を二つに分けたりして歌い、音の重なりを感じられるようにする。

③ 主体的に歌唱表現させるための工夫

楽曲「もみじ」のフレーズごとの歌唱表現をグループで考えさせていく。グループは同じパートを担当している児童で編成し、学習リーダーを中心にして、話し合う課題を把握させた上で話し合いができるようにする。歌いながら歌唱表現の工夫を考えさせたい。

④ 児童の思いや意図を歌唱表現に生かすためのワークシートの活用

学習の過程や、考えたことを書き込めるようワークシートを用いる。Ⅰ期同様に児童の実態に合わせて、書くことが負担とならないよう記入項目の数を少なくし、ワークシートの楽譜に考えた歌唱表現を直接書き込むようにする。既習した音楽記号を書いたり、曲想を書いたりできるようなワークシートを作成したい。

⑤ 学習の場の設定の工夫

児童同士が自分の担当する旋律を安心して歌うことができるよう、教室後方に合唱スペースを設け合唱隊形で歌わせたい。児童が歌声を確認できるよう歌うグループと聴くグループに分け、互いに聴き合う活動も取り入れる。

(3) 指導過程

段階	主な学習活動 ◎教師の発問、指示 ・予想される児童の反応	形態	指導上の留意点※評価（方法）
導入 8分	1 前時を振り返り、本時の課題を知る。 ◎前時を振り返り「もみじ」を歌いましょう。 ・情景を思い浮かべながら主旋律を歌う。 ・休符や音程に気を付けて副旋律を歌う。 声为重なり合う美しさを感じながら歌おう。	一斉	・姿勢、口形、発声を確認し歌わせる。 ・前時のワークシートや挿絵、写真を提示して情景を確認させる。【手立て①】 ・学習カードに課題を書かせる。 ・主旋律と副旋律の重なりに着目させ、表現していくことを確認する。

<p>展開 30分</p>	<p>2 「もみじ」を二部合唱で歌い、どのように歌うか思いや意図を持つ。 ◎互いの声を聴きながら、もみじの情景が表れる歌い方を考えて歌いましょう。 ・美しい紅葉の感じを歌いたいな。 ・旋律が上手く重なるように歌いたい。</p> <p>◎どのように歌うと情景が表れるだろうか。 ・声の大きさは、<i>mp</i>～<i>mf</i>がいいな。 ・きれいな歌声で歌いたい。 ・「松を彩る」のところは盛り上げて、息をいっぱい吸おう。 ・「すそもよう」のところは終わりだから静かに歌おう。</p> <p>3 思いや意図を持って「もみじ」を二部合唱で歌う。 ◎主旋律と副旋律に分かれて、みんなで考えた歌い方を生かして歌いましょう。 ・主旋律は、自信を持って歌うことができた。 ・副旋律は主旋律につられて難しかった。 ・「数ある中に」を柔らかい声で歌えた。 ・互いの歌声を聴いて歌えていなかった。</p> <p>4 主旋律と副旋律に分かれ学習リーダーを中心に歌う。 ◎旋律ごとに集まり、旋律が美しく重なることを意識して歌いましょう。 〈主旋律グループ〉 ・旋律が途切れないように滑らかに歌おう。 ・高い音を響かせて歌おう。 〈副旋律グループ〉 ・前半部分の副旋律は上手く歌えたよ。 ・「松を彩る」の出だしが難しいな。何度も練習しよう。 ◎歌うグループと聴くグループに分かれ、互いに聴き合おう。 ・前半の旋律の掛け合う部分がきれいだった。 ・声は小さいけれど、2つの旋律が重なり合って美しかった。 ・もう少し、副旋律が聴こえるといいと思う。 ◎最後に、全員で「もみじ」を歌いましょう。</p>	<p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p>	<p>・児童と教師に分かれ、二部合唱で歌う。 【手立て②】 ①主旋律→児童，副旋律→教師 ②主旋律→教師，副旋律→児童 ・前半部分は、輪唱の音の重なりに、後半部分は3度の音が重なり合っていることを演奏を聴いたり、楽譜を重ね合わせたりして確認する。【手立て②】 ・歌いたい思いや意図をワークシートに記入させる。【手立て④】 ※互いの歌声や旋律、音の重なりを聴き取り、美しさを感じ取りながら、歌い方について思いや意図を持っている。（発言・ワークシート） 【音楽表現の創意工夫】</p> <p>・主旋律と副旋律に分かれ、1番から通して歌う。【手立て⑤】 ・児童から出された考えを板書し、課題を明確にする。</p> <p>・CDに合わせて主旋律が歌い、同時に教師が副旋律を演奏し、副旋律が自信を持って歌えるようにする。【手立て②】 ・学習リーダーを中心に歌い、歌唱表現について話し合わせる。【手立て③】</p> <p>・主旋律と副旋律をそれぞれA、Bの2つのグループに分け、旋律の重なりや思いや意図が表現された合唱になっているか互いに聴き合わせる。【手立て⑤】 ・互いに聴き合い気付いたことをワークシートに書かせる。【手立て④】 ※友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて合唱をしている。（表情観察・演奏聴取） 【音楽表現の技能】</p>
<p>終結 7分</p>	<p>5 本時を振り返り、次時の学習を知る。 ◎次回から新しい学習です。</p>	<p>一斉</p>	<p>・学習カードを配付し、本時の学習を振り返らせる。</p>

(4) 本時の評価

互いの歌声や旋律、音の重なりを聴き取り、美しさを感じ取りながら、歌い方について思いや意図を持っている。 【音楽表現の創意工夫】

友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。 【音楽表現の技能】

(5) 準備物

教師：教科書、楽譜、提示物、拡大楽譜、電子ピアノ、オーディオ機器、ワークシート
児童：教科書、筆記用具

(6) 板書計画

